

人間を
見捨てなかった男

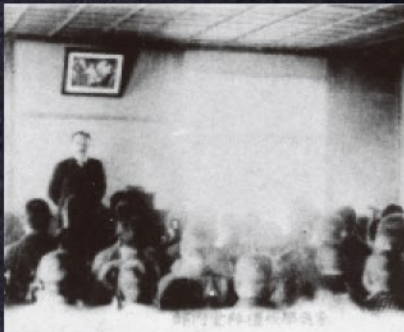
留岡幸助



創建当時の高梁基督教会 (同教会蔵)



樺戸集治監 (月形樺戸博物館蔵)



家庭学校の生徒に語る留岡幸助
(東京家庭学校蔵)



北海道家庭学校礼拝堂 (同校蔵)



家庭学校社名淵分校の生活 (北海道家庭学校蔵)



家庭学校北海道農場平面図 (北海道家庭学校蔵)



留岡 幸助 (北海道家庭学校蔵)

平成30年
12月4日(火)午後2時～4時30分(予定)
山陽新聞社さん太ホール(岡山市北区柳町)

入場
無料

講演



京都ノートルダム女子大学特任教授
室田 保夫

演題
「近代日本と留岡幸助
—その思想を中心に—」



北海道教育大学教授
二井 仁美

演題
「家庭学校にかけた
留岡幸助の大構想」

るるるるる

備中高梁で生まれた留岡幸助(1864-1934)は、「士族の魂も町人の魂も神様の前では平等である」と説くキリスト教に傾倒して高梁教会で洗礼を受けた。同志社を卒業した後、牧師を経て1891(明治24)年、北海道空知集治監(監獄)の教誨師となり、受刑者一人ひとりの過去と向き合った。

1899(明治32)年、「家庭学校」(現東京家庭学校)を東京巢鴨に創設。1914年には、北海道の1,000haの大地に、農場と社名淵分校(現北海道家庭学校)を設立した。非行少年と共に「能く働き、能く食べ、能く眠る」生活を通して、「流汗悟道」(汗を流し働くことで生きる道を会得する)教育を行った。

留岡は米国遊学後、『慈善問題』(1898)を上梓し20世紀日本の方向性を示す一方、1905年には機関誌『人道』を刊行し、慈善事業、キリスト教、教育、地方改良、監獄改良などの論文を晩年まで社会に発信し続けた。留岡は西洋文明だけでなく、日本の土着的な思想にも関心を示し、1934年に亡くなるまで、感化救済事業、社会事業、地方改良運動にも関わっていく。その意味で留岡は近代日本の代表的な社会事業の実践者であり、思想家でもあった。

シンポジウムでは、研究者ふたりを招き、社会事業家としての留岡の事業や思想とその生涯、家庭学校の教育を紹介するほか、東京ドーム93個分もある北海道家庭学校はなぜそれほど広いのか、その謎にも迫る。



留岡が発行した機関誌『人道』と家庭学校正門



家庭学校社名淵分校(北海道家庭学校蔵)

出演者プロフィール

室田 保夫 (むろた やすお)

京都府出身。京都ノートルダム女子大学特任教授。関西学院大学名誉教授。博士(社会福祉学)。
専門は近代日本の社会福祉の歴史。とくに、社会福祉に関わった人物の思想や理論をその時代の経済、政治、文化、社会を背景に研究している。同志社大学大学院修了後、関西学院大学教授などを経て現職。
著者に『留岡幸助の研究』、『留岡幸助著作集』全5巻(共編)、『キリスト教社会福祉史の研究』、『近代日本の光と影』など、社会福祉関連著書、論文多数。

二井 仁美 (にい ひとみ)

愛知県出身。北海道教育大学教授。博士(学術)。
専門は教育史。とくに家庭学校をはじめ、感化教育・教護教育・児童自立支援施設に焦点をあてながら、近代日本の教育の歴史を研究している。奈良女子大学大学院博士課程単位取得退学後、日本学術振興会特別研究員、大阪教育大学教授などを経て、2011年度より現職。
著書に『留岡幸助と家庭学校 近代日本感化教育史序説』、編著に『教員のための子ども虐待理解と対応一学校は日々のケアと予防の力を持っている』(共編)、『子どもの人権問題資料集 子どもの保護教育』など。

ご希望の方には「優待席」をご用意します。
この用紙のままFaxでお申し込みください。 **11月5日(月)必着**

お名前(企業名)	
〒	
ご住所	
申込人数	※ 2名までとさせていただきます。
ご連絡先(電話など)	
fax 086-225-5046	
優待席お申込は、ハガキ、e-mailでも受け付けます。	
◆ e-mail nichiran@rsk.co.jp	
◆ ハガキ宛先 〒700-8580 山陽放送内(公財)山陽放送学術文化財団	
◆ 申し込みは1枚(1回)につき2人迄となります。(複数応募不可)	
希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。	
「優待席のご案内」はハガキでお知らせします。	

絶賛発売中!

「岡山蘭学の群像1・2・3」

A5判 定価 1・2 本体 1400円+税
3 本体 1600円+税

先人のあくなき探究心と、歴史のダイナミズムがここに!

最寄りの書店でお求めください。

次回は テーマ:「**貧困からの救済、濟世顧問制度**」

平成31年2月21日(木)午後2時
山陽新聞社さん太ホール